



2026年8月7日

各 位

会 社 名 テスホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 山本 一樹
(コード：5074 東証プライム)
問合せ先 執行役員管理本部長 平倉 正章
(TEL：06-6308-2794)

サステナビリティファイナンス等による調達資金の充当状況並びに 環境及び社会側面での改善インパクトについてのご報告

当社が過去に実施したサステナビリティファイナンス等^{※1}について、2026年6月30日時点における調達資金の充当状況並びに2025年7月1日～2026年6月30日までの1年間の環境及び社会側面の改善インパクトについて、以下のとおりご報告いたします。

1. 調達資金の充当状況 (2026年6月30日時点)

(1) 上場調達資金^{※2}

事業区分	対象事業	資金使途	調達金額 (百万円)	充当金額 (百万円)	充当状況
再生 可能 エネ ルギ ー	①「福岡みやこメガソーラー発電所」における発電事業	建設資金 (リファイナンス)	10,722	10,722	全額充当完了
	②「錦町2MW木質バイオマス発電所」における発電事業	建設資金	1,400	1,400	全額充当完了
	③「佐賀伊万里バイオマス発電所」における発電事業	建設資金	1,166	1,166	全額充当完了
汚染 防止 及び 抑制	④インドネシアにおけるEFBペレット製造事業	建設資金	197	197	全額充当完了
合計			13,485	13,485	

(2) 一部コミットメント型ライツ・オフエリング (サステナビリティライツ・オフエリング) ^{※3}

事業区分	対象事業	資金使途	調達金額 (百万円)	充当金額 (百万円)	充当状況
再生 可能 エネ ルギ ー	①「福岡みやこメガソーラー発電所」における発電事業	匿名組合 出資持分の 取得資金	785	785	全額充当完了
	③「佐賀伊万里バイオマス発電所」における発電事業	建設資金	12,582	12,582	全額充当完了
合計			13,367	13,367	

(3) グリーンローン※4

事業区分	対象事業	資金使途	調達金額 (百万円)	充当金額 (百万円)	充当状況
再生可能エネルギー	③「佐賀伊万里バイオマス発電所」における発電事業	建設資金	17,000	17,000	全額充当完了
合計			17,000	17,000	

2. 環境及び社会側面の改善インパクト (2025年7月1日～2026年6月30日※5)

(1) アウトプット／アウトカム

①設備容量

対象事業	設備容量※6 (MW)	算出根拠・理由
①「福岡みやこメガソーラー発電所」における発電事業	約67.0	—
②「錦町2MW木質バイオマス発電所」における発電事業	約2.0	—
③「佐賀伊万里バイオマス発電所」における発電事業	46.0	—
合計	約115.0	—

②CO₂排出削減量

対象事業	CO ₂ 排出削減量 (t-CO ₂ /年)	算出根拠・理由
①「福岡みやこメガソーラー発電所」における発電事業	27,538 (累計120,444)	① 売電電力量 66,196,488 kWh ② 電気事業者別排出係数 0.000416t-CO ₂ /kWh※7 ①×②=27,538t-CO ₂
②「錦町2MW木質バイオマス発電所」における発電事業	5,327 (累計14,817)	① 売電電力量 12,806,467kWh ② 電気事業者別排出係数 0.000416t-CO ₂ /kWh※7 ①×②=5,327t-CO ₂
③「佐賀伊万里バイオマス発電所」における発電事業	119,679 (累計159,397)	① 売電電力量 287,688,960kWh ② 電気事業者別排出係数 0.000416t-CO ₂ /kWh※7 ①×②=119,679t-CO ₂
合計	152,544 (累計294,659)	

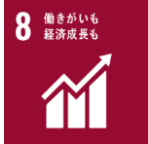
③廃棄物削減量

対象事業	廃棄物削減量 (トン/年)	算出根拠・理由
④インドネシアにおけるEFBペレット製造事業	0	事業開始前のため廃棄物の削減実績はありませんが、現在、事業開始に向けて研究開発を進めております※8。なお、事業開始後は、2. (2)に記載の環境及び社会側面の改善インパクト (SDGsへの貢献可能性) の創出が期待できます。

④新規雇用者数

対象事業	新規雇用者数 (人/年)	算出根拠・理由
①「福岡みやこメガソーラー発電所」における発電事業	0 (累計8)	発電所開発に関する新規雇用実績0人(累計5人) 発電所運営に関する新規雇用実績0人(累計3人)
②「錦町2MW木質バイオマス発電所」における発電事業	0 (累計15)	発電所開発に関する新規雇用実績0人(累計1人) 発電所運営に関する新規雇用実績0人(累計14人)
③「佐賀伊万里バイオマス発電所」における発電事業	5 (累計28)	発電所開発に関する新規雇用実績0人(累計2人) 発電所運営に関する新規雇用実績5人(累計26人)
④インドネシアにおけるEFBペレット製造事業	0	事業開始前のため新規雇用実績はありませんが、現在、事業開始に向けて研究開発を進めております※ ⁸ 。なお、事業開始後は、2.(2)に記載の環境及び社会側面の改善インパクト(SDGsへの貢献可能性)の創出が期待できます。
合計	5 (累計51)	

(2) 環境及び社会側面の改善インパクト(SDGsへの貢献可能性)

対象事業	環境及び社会側面の改善インパクト(SDGsへの貢献可能性)の定性評価	
①「福岡みやこメガソーラー発電所」における発電事業		再生可能エネルギー由来の電力が発電されることで、発電に伴うCO ₂ 発生量の削減(120,444t-CO ₂ (累計))が実現しています。
		発電所開発及び運営に係る8人(累計)の雇用を創出しています。
②「錦町2MW木質バイオマス発電所」における発電事業		再生可能エネルギー由来の電力が発電されることで、発電に伴うCO ₂ 発生量の削減(14,817t-CO ₂ (累計))が実現しています。
		木質バイオマスとしてバーク(樹皮)等の未利用材を活用することにより、従来は廃棄されていた未利用材の廃棄量の削減に貢献しています。
		発電所開発及び運営に係る15人(累計)の雇用を創出しています。

③「佐賀伊万里バイオマス発電所」における発電事業	 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	再生可能エネルギー由来の電力が発電されることで、発電に伴うCO ₂ 発生量の削減（159,397t-CO ₂ （累計））が実現しています。
	 8 働きがいを 経済成長も	発電所開発及び運営に係る28人（累計）の雇用を創出しています。
④インドネシアにおけるEFBペレット製造事業	 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	事業開始前のため、EFBペレットを使用した再生可能エネルギー由来の電力の発電に伴うCO ₂ 発生量の削減はありませんが、将来的にEFB等を原料とする新たなバイオマス燃料の調達を可能にすることでCO ₂ 発生量の削減を実現する効果が期待できます。
	 12 つくる責任 つかう責任	事業開始前のため、パーム油の搾油に伴う残渣物の廃棄量の削減実績はありませんが、EFB等を燃料として活用できる技術が開発できれば、残渣物の廃棄量を削減することが可能となります。
	 8 働きがいを 経済成長も	事業開始前のため、新規雇用実績はありませんが、将来的にペレット製造が拡大すれば、ペレット製造工場等、広く地域全体に新たな雇用を創出する効果が期待できます。

※¹ 当社が2023年6月21日に公表しました「サステナビリティファイナンス・フレームワーク（https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/ir_material_for_fiscal_yml/137613/00.pdf）」において、グリーン適格プロジェクトに対する新規支出及び／又は既存支出のリファイナンスに充当することを目的に行う資金調達及び、グリーン及びソーシャル適格プロジェクトに対する新規支出及び／又は既存支出のリファイナンスに充当することを目的に行う資金調達と定義しております。

※² 2022年2月10日付「上場調達資金の資金使途変更に関するセカンドパーティ・オピニオン取得のお知らせ（<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2082712/00.pdf>）」にて公表しましたとおり、上場調達資金の資金使途（充当先）に関し、環境及び社会側面の改善インパクト及び当社グループ自身のESGへの対応状況の評価について、デット・ファイナンスにおける「グリーンボンド原則」、「ソーシャルボンド原則」及び「サステナビリティボンド・ガイドライン」の評価特性に基づく株式会社日本総合研究所の外部レビューを受け、「セカンドパーティ・オピニオン」を取得しております。

※³ 2023年6月21日付「一部コミットメント型ライツ・オフアリング（サステナビリティライツ・オフアリング）に関するお知らせ（<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2301141/00.pdf>）」にて公表しましたとおり、本ライツ・オフアリングは当社が2023年6月21日に公表しました「サステナビリティファイナンス・フレーム」に則っており、本フレームワークは第三者評価機関である株式会社日本総合研究所より、「グリーンボンド原則2021」、「ソーシャルボンド原則2021」、「サステナビリティボンド・ガイドライン2021」、「グリーンボンドガイドライン2022年版」、「ソーシャルボンドガイドライン2021年版」、「グリーンローン原則2023」、「ソーシャルローン原則2023」及び「グリーンローンガイドライン2022年版」に適合している旨の「セカンドパーティ・オピニオン」を取得しております。

※⁴ 2023年6月30日付「グリーンローンに対するセカンドオピニオン取得のお知らせ（https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/ir_material/210395/00.pdf）」にて公表しましたとおり、2023年6月21日付「シンジケートローン契約締結に関するお知らせ（<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2301126/00.pdf>）」にて公表しましたシンジケートローン契約による資金調達に関して、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センター（R&I）より、「グリーンローン原則2023」及び環境省「グリーンローンガイドライン2022年版」に適合している旨の「セカンド

オピニオン」を取得しております。

※⁵環境及び社会側面の改善インパクトのレポーティングは、当社の会計期間に合わせ7月1日から翌年6月30日までの1年間に生じた定量及び定性情報を報告することといたします。

※⁶太陽光発電所の発電容量は、モジュールベース（太陽電池モジュール最大出力の和）の設備容量表記であります。バイオマス発電所の発電容量は、発電端出力ベースの設備容量表記であります。

※⁷環境省・経済産業省「電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）令和6年度実績」における代替値を使用しております。

※⁸インドネシアにて EFB ペレット製造の実証を行う工場が完工、竣工式を実施いたしました
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2847983/00.pdf>

※⁹累計の記載につきましては、2022年6月期の実績値からの累積の値であります。

以上